

# 平成以降の財政法第6条剰余金の処理状況

(H4, 5, 9, 13, 20 は剰余金なし)

## 過去の借金返済に充当

- Ⓐ 50%超 (H10, 16, 17)
- Ⓑ 50% (H1, 7, 8, 15, 18, 19, 21, 23~29)
- Ⓒ 0% 【特例法制定】 (H2, 3, 6, 11, 12, 14, 22, ③)

## 補正予算での借金抑制の程度

- Ⓐ 国債発行せず (H14, 22)
- Ⓑ 建設国債のみ発行 (H2, 3, 11)
- Ⓒ 建設国債、赤字国債を発行 (H6, 12, ③)

H6 2,110億円  
H12 1兆3,660億円  
H30 2兆2,297億円

※ ( ) 内の数字は剰余金の発生年度を表す



新年度の予算編成を評して、引退した公共族の超大物政治家が「バラマキがひどい。国に対する過剰な依存心を抱かせないことも為政者の大事な心構えのはずなんだが」と語ったという。公共族でさえ心配するほどタガの外れた予算だ。

もともと明確な哲学とか経済政策の体系を感じさせない政権ではあったが、それでも一定の方向感があったように思う。しかし一昨年、昨年と政策以外のところでガバナンスの低下とおごりが露呈して、いよいよ

### 世も末です

の基盤整備だの、国の金でやることか？  
さらに、財政の見栄えのため、ばらまき歳出を補正に回して当初予算の歳出をスリム化。他方で税収見積みを上ぶれさせ、前年度剰余金を借金返済にも補正にも充当せず当初予算の歳入に組み込み、公債依存度を小さくみせている。

私も様々な予算のやりくりを見てきたが、ここまでルール無視の「見せかけの国債発行削減」は初めてだ。もはや財務省主計局の官僚も共犯だ。彼らがボスに加担して一緒に悪知恵を巡らさなければこんな芸当はできない。

政権維持が自己目的化、「総無責任体制」になっている。  
そもそも景気対策で大型補正を組む、というのが20世紀の発想だ。大型補正を何度も繰り返して財政赤字の傷を深くしたことを忘れたのか。中身もひどい。財政投融资で高級ホテルをつくるのだのIR(統合型リゾート)

さらに重症なのは、各省官僚や財務省を取材する記者だ。このからくりのひどさは分かっている。役人は誰一人表立って声をあげないし、マスコミの報道も腰が引けている。正月早々申し訳ないことだが、もはやこの国、どちらを向いても救いがない。(呉田)

この欄は、第一線で活躍している経済人、学者ら社外筆者が執筆しています。

出典：2020年1月16日(木) 朝日新聞 朝刊 12面 記事

令和2年1月28日(火) 衆議院 財務金融委員会 衆議院議員 階 猛 (立憲民主・国民・社保・無所属フォーラム)